本を読めなかった私

伯野元彦
HAKUNO Motohiko
フェロー会員　工博
攻玉社工科短期大学学長

2001年地球温暖化環境調査のため南極にて

私は現在満71歳，この年代は皆同じだと思うが，小中高校の最も本を読まなければいけない時代が第二次大戦と戦後の混乱期にぶつかっているのである。したがって，いわゆる名作という本はその時期にはほとんど読んでいない。小学校3年位までは戦争はまだ始まっていなかったので色々な子供向けの本を読んだ記憶がある。例えば，グリム童話集などである。ただこれらは親から与えられた本なのであまり面白いという印象はなく，親が買ってくれない講談本とか探偵小説などを友達の家で読んでから自宅へ帰っていた。自宅に借りて帰ると親に見つかるからである。

夢中になったのは，講談本では「後藤又兵衛」とか「霧隠才蔵」など，後者では江戸川乱歩の「怪人二十面相」「少年探偵団」などであった。そのうち，第二次大戦が始まり色々な物資が不足し始めて戦時色が強まり，本を読むなどという雰囲気ではなくなった。また，紙も不足気味になって，本を作るどころではなくなっていたのではないかと思う。何しろランドセルから筆箱まで紙で作っていたのだから紙も不足するわけである。そして，中学2年の忘れもしない5月24日の夜半，米軍のB29の爆撃で早稲田大学と塀を接していたわが家は全焼，一家4人は何とか炎をかいくぐって逃げたが，両隣10人は全員死亡，町内では約半数の400人余りが死亡した。3か月して，広島，長崎に原爆を落とされて敗戦，それまで兵器を作っていた日立に勤めていた父はリストラされ，それからのわが家はまともな家も収入も食料もないという，かなりの日本国民のたどった苦難の道を歩んだ。

幸いなことに私の通っていた都立六中（後の新宿高）は焼けなかったが，近所の焼けた青山中とか小学校の生徒が間借りすることになったため二部授業となり，まさに本を読むなどという環境ではなかった。それでも，日曜日などは現在の赤坂迎賓館の一部が国会図書館であったので，受験勉強が主ではあったが合間に色々な本を読むことができた。大学に入ってからは，アルバイトのできる年齢になったこともあって，家計を助けるため家庭教師をフルに，日曜日などは午前，午後，夜とやっていたため，本を読む時間がなかった。大学院に進学してからの5年間は，学生寮に入ることができたためもあって，多少時間的余裕もできたが，昔の寮生活の気風が残っていて，アルバイトから帰ってきて，夕食後9時位から夜中までは友人の部屋に数人が集まっては談論風発ダベリに夢中になった。その連中とは同じ釜の飯を食った仲間というわけで今でも交流は続いている。理学とか工学とか生真面目な連中はその中には居らず，法，経，文，医の分野が多く，あのような生活を味わったものには窮屈な会社勤めはできないのか，大学教授になったり，弁護士，開業医など自由業的な職業についたものが多い。私は本を読む代わりに，友人と喋ることで人格形成を行ったという感じがする。

その後，大学に勤務するようになってからも，専門書以外には本を読むというより，新聞，雑誌の活字に目を通す位になった。その後，テレビとビデオが普及してからは見たい番組を収録しておいて，夜，または土，日にまとめて見る習慣となってしまった。シェイクスピアにしろ世界の名作といわれるものはほとんど映画化され放映されている。私はそれらの名作を本では読めかったが，ビデオでほとんど見てしまっている。私の現在毎週予約録画する番組は，「クローズアップ現代」，私の長男が制作陣に居るためもあって「プロジェクトX」，「新日曜美術館」，「歌謡コンサート」，「N響アワー」，「世界遺産」，「大河ドラマ」，「囲碁」など14時間以上にも及ぶ，これを見るためには1日平均2時間，日曜など4時間以上も見なければならないときもある。

このように振り返ってみると，私が本を読むべき青春時代は，第二次大戦と戦後の混乱のため，全くといっていいほどその機会がなかった。ある程度読書ができる環境が得られた大学院時代には，学寮の友人とのダベリングに時を過ごし，その後は録画したテレビ番組が本の代わりをしているというのが実情である。そして，学寮の友人も工学関係はほとんど居らず，法律，経済，医学関係が多く，大学院の指導教官である岡本舜三教授も東大生産技術研究所の応用物理関係に所属しておられたので，そのような影響を受け，その後60歳までの勤務の大半を過ごした東大地震研究所も理学出身者がほとんどという環境だったため，私の専門である地震工学の研究にも土木の殻に閉じこもらないという影響が良い意味で現われていると思う。

●著者略歴

1932年	北九州市明治工専（現九州工大）宿舎生まれ
1956年	東京大学工学部土木工学科卒業
1961年	東京大学大学院土木工学博士課程修了
1961年	東京大学助手（生産技術研究所）
1966年	東京工業大学助教授（理工学部土木工学科）
1969年	東京大学助教授（地震研究所）
1990年～1992年	東京大学地震研究所所長
1992年	東洋大学教授（工学部環境建設学科）
2002年～	攻玉社工科短期大学学長

専門は地震工学：地震被害調査は国内17，海外15に及ぶ。

●主な著作

被害から学ぶ地震工学（鹿島出版会～土木学会著作賞受賞）
破壊のシミュレーション（森北出版～土木学会著作賞受賞）

連載